

内部磁気圏分科会 活動報告 (2003年10月～2004年05月)

はじめに

内部磁気圏分科会は以下の4つの目的を掲げて2002年11月に設立された。

- 内部磁気圏研究を推進すると同時に、新しい内部磁気圏探査ミッションの実現を目指す。
- 地上観測と衛星観測、宇宙工学コミュニティ等、SGEPSS内外の関連分野との交流を推進する。
- 国外の内部磁気圏関連ミッションの動向を調査し、国際的な共同研究環境の構築を検討する。
- 観測・解析キャンペーンの設定等を行い、共同研究を促進する。

活動状況

分科会としての活動は、学会期間中の会合や研究会(2回開催)、非公式の meeting、メーリングリスト(登録者74名)による情報・意見交換、WWWによる情報発信等を通じて行なわれている。

小型衛星を用いた内部磁気圏探査実現の見通しについては、流動的かつ不確定な要素が多いが、様々な角度からの検討が継続的に行われている。そして、様々なシンポジウム・研究会等を通じて、計画のアピールを行ってきた。(宇宙天気・気候シンポジウム(陸別:11月28-29日)宇宙科学シンポジウム(ISAS::1月8-9日)、CAWSES 電磁圏シンポジウム(九大:3月18-19日)、磁気圏・電離圏シンポジウム(ISAS:3月24-25日))当分科会の活動はJAXA内部での小型衛星を用いた科学探査シリーズの検討等に対してもコミットしている。また、搭載機器開発を推進するための、科研費の申請等を行ってきた。今期に開催された3回の会合の概要を以下に示す。

第5回内部磁気圏分科会 会合 (2003年11月01日:富山大学)

地球電磁気・地球惑星圏学会の昼休みを利用して開催された。10月末の大磁気嵐の直後だったので、イベントの速報レポートが行われた。また、諸外国の内部磁気圏探査計画の動向に関する報告が行われた。

第6回内部磁気圏分科会 会合 (2004年03月4-5日:STE 研豊川)

小型衛星ミッションの実現に向け、ミッションのプラットフォーム(衛星)をどのように獲得してゆくか、内部磁気圏ミッションのサイエンスターゲットの深化、予算面も含め、ミッション実現に向けてどのような戦略をとるべきか、という観点から、現状の報告と議論が行われた。

第7回内部磁気圏分科会 会合 (2004年05月13日:幕張メッセ)

合同大会の昼休みを利用して開催された。小型衛星を用いた内部磁気圏探査衛星実現に向けた取り組みの現状や問題点、新しく発足されたSTE研のジオスペースセンターとそこで実施するプロジェクトの紹介、搭載機器開発を推進するための科研費(特定領域)の申請の現状と今年度の取り組みに関する報告と話し合いが行われた。

今後の予定

内部磁気圏衛星ミッションに関する取り組みを、CAWSES Kickoff Meeting、COSPAR等で紹介していく。また、8月上旬に、内部磁気圏に関する研究集会を開催する予定である。

今後の課題

地上観測との連携の科学的意義を追及すると同時に、内部磁気圏探査ミッション実現や総合的な研究活動推進のために、今後は宇宙工学等他学会との交流等にも力を入れていく必要があると考えている。